

育児休業体験談の紹介

男性教職員が育児休業を取得するタイミングや取得する期間は、個々の状況に応じて様々です。子育てに携われる時期は、一生のうちで限られており、育児休業等は子どもの日々の成長を身近で感じられるまたとない機会です。必ず家族のため、ご自身にとっても良い経験になると思います。積極的に育児参加休暇や育児休業等、育児に関連する制度を活用してください。

教職員の子育ての後押しとなるよう、令和2年度に取得されたご家族の体験談を紹介します。

「男性の育休は代えがたい経験、もっと身近に」



高等学校 男性教諭 (令和2年度取得)

私は令和2年の**10月中旬～12月中旬のおよそ2か月間、第2子の出産にあわせて育児休業(以下、育休)を取得しました。**本来は産後すぐに…という予定だったのですが、実際には、出産から1か月後から始まりました。

私は男性の育児休暇の制度については、以前職場でご一緒した男性教員の先輩が取得したことをお話して下さったので、知ってはいましたが、正直なところ、妊娠が分かるまで取得するとは少しも思っていませんでした。3年前の第1子の出産時では、出産休暇(3日間)のみを取得しただけで、育児休業を取ってくれた妻に家事と合わせて任せる形で、私自身の育児への参加はそんなに多くはありませんでした。**家庭をあまり優先していない私の行動が度重なったことで、育児について夫婦で話を続け、一部ですがその大変さを実感していました。**

第2子の妊娠が分かったあとの「1週間でも構わない」という妻の言葉から、育休の取得を考え始めました。第1子のときの反省を生かしたいと思いましたが、**父親として成長する機会だと考えるようになりました。**安定期に入った頃、校長先生へ妊娠の報告とともに育休を相談し、取得することになりました。

いざ、育休が始まると勤労の実感がないことで、少し罪悪感のようなものが芽生えました。ただ、それは一瞬。24時間気が抜けない子育ての大変さと、小さい命を扱う緊張感で、そんなことを考える余裕はありませんでした。ただ、**子供の一挙手一投足に一喜一憂したことは、何事にも代えがたい経験でした。**育児に不慣れな私でも、少しは妻の代わりができたのではないかと思っています。

育休にあたって大きな不安になったのが、育休のタイミングが近づいても、代わりの講師の方が見つからないことでした。9月下旬に入り、**私は校長先生へ取り下げも覚悟で相談をしにいくと、「授業に穴が開いてしまう分は他の教員でフォローするので、君は気にせず、育休を取得しなさい」と言って頂けたことで、本当に心が楽になりました。**

職場には大きな後ろめたさがありましたが、分掌や同じ学年団の先生方に支えられている環境が育休の取得には大きな後押しになりました。その後幸いにも、講師の先生が来ていただけることになりました。

お金の面での不安もありました。育休で勤務しなくなる分の給与がないことを知っていても金額を見たとき少しショックでした。ただ、**共済組合から一定額の支給があったことで、とても助かりました。**事前の手続きも、同僚の事務の担当の方がすべてチャート式の説明を準備して、丁寧に教えて下さったことにも感謝しています。

育休の前後に、育休で2か月間不在になることを学校外の方に話をすると、とても驚かれたり、「理解のある職場ですね」と言って頂いたりしました。“めずらしいこと”のような自覚もありますが、個人的には全てのお父さんになられる方に育休を勧めたいです。「子育ての期間やチャンスは尊いものだ」と先輩方に言っていただけます。本当にその通りだと思います。

そして、近い将来、今以上に気軽に男性が育休を選択肢に入れられる環境がますます広がってほしいと願っています。

今回の経験が、次にお父さんになられる方の参考になればと思うばかりです。



「男性の育児休業について」

育児休業を取得した職員の配偶者



今回私が2人目の出産にあたり**夫に育休を取ってもらった理由は、1人目の産後が思っていた以上に精神的にも肉体的にもしんどかったということと、期間の短い乳児の世話を夫にも経験してもらいたかったということです。**

産後2ヶ月間育休をとってもらった感想は、本当に良かったということです。

上の子の世話や家事をやってもらえた事で、精神的にも肉体的にも余裕を持って育児することができました。また、新生児の育児は三時間おきの授乳やおむつの交換など休むこともままならいという経験を共にしてもらうことで、より育児に主体的に関わってくれるようになったと感じます。

1人目の出産は何もわからないままだったので育休をとってもらいませでしたが、**1人目からとってもらう事が重要だと感じました。**

今後2人で育児をやっていく上で夫婦の関係性や子供との関係性も良好なものになると思いますが、**お父さんになる全ての男性に育児休業をとってほしいです。**